

# 認知症カフェの利用促進を考える

—— いわき市における地域住民を対象とした意識調査を通じて ——

日本社会事業大学大学院福祉マネジメント研究科  
2018年修了 大津拓直

## I. 緒言

筆者は、いわき市の認知症地域支援推進員として、2014年5月より2017年3月まで、市の認知症ケア総合支援事業に関する業務に携わってきた。市事業における認知症カフェ（以下、「カフェ」という。）については、認知症の普及啓発及び地域における交流の場等を目的に、2015年11月より「オレンジカフェ以和貴」として実施している。「第8次いわき市高齢者保健福祉計画」によると、2017年10月1日現在、いわき市の人口は327,491人であり、65歳以上の人口については95,614人、高齢化率は29.2%となっている（いわき市2018a）。カフェの開催実績については、2016年度において開催回数は53回であり、参加者は延べ505人であった（いわき市2018b）。筆者は、カフェの1回あたりの参加者数が平均9.5人であることから、地域の人口と比較し、参加者が少ないことがカフェの課題であるととらえていた。

## II. 研究目的

本研究については、筆者自身の実践研究において、カフェの課題を探るため、参加者及び地域住民を対象とした意識調査を実施し、結果に基づき、カフェが地域で発展するための方策を提言している（大津2018）。本研究は、カフェの利用促進に関する課題を解決するためのさらなる手がかりを探ることを目的に、実践研究における地域住民を対象に実施したカフェに関する地域の意識調査（以下、「意識調査」という。）について、住民間の年代的差異がどのように影響を及ぼしているかを再検証するものである。

## III. 研究方法

### 1. 調査概要

#### 1) 調査対象

カフェ事業の委託先等である介護事業所7法人（以下、「事業所」という。）の施設利用者、事業所において地域住民を対象に実施した夏祭り等の行事及び催事の参加者、市内に所在する福祉団体（1団体）の会員並びに福祉系大学（1校）の学生、その他の地域住民を対象に質問紙調査を実施した。

#### 2) 調査項目

①属性（性別・年代）、②知名度、③利用状況、④必要性、⑤必要及び配慮すべきこと、⑥開催場所、⑦開催日付及び開催回数、⑧自由記述

#### 3) 調査期間

2017年8月より10月のカフェの開催日以外において、全15回にわたり実施した。

#### 4) 回収状況

調査対象者数185人、有効回答者数183人、無効回答者数2人（回答率98.9%）

#### 5) 有効回答者の性別

女性116人（63.4%）、男性55人（30.1%）、性別無回答12人（6.6%）

#### 6) 有効回答者の内訳

事業所の施設利用者及び行事等の参加者87人（47.5%）、福祉系大学の学生79人（43.2%）、福祉団体の会員11人（6.0%）、その他の地域住民6人（3.3%）

### 2. 倫理的配慮

意識調査の実施において、調査目的及び調査結果を研究目的以外には使用しないことを紙面に記すとともに、調査対象者等に対して、調査

の実施前に研究の趣旨等を口頭で説明し、同意を得た。

### 3. 検証方法

再検証にあたり、各調査場所をそれぞれ主たる回答者の年代ごとに分類し、分析を実施した。分類の内訳については、主たる回答者が60代以上を占めている事業所・福祉団体・その他の調査場所を「事業者等」104人(56.8%)とし、主たる回答者が10代及び20代を占めている福祉系大学を「大学生」79人(43.2%)とした。

## IV. 結果

カフェに関する「回答者の年代」、「利用状況」、「利用できない理由」、「必要性」、「必要及び配慮すべきこと」、「望ましい開催場所」、「望ましい開催曜日」の調査項目について、事業所等及び大学生それぞれにおける分析結果は次のとおりである。

### 1. 回答者の年代

事業所等において「60代」35人(33.7%)が最も多く、次いで「70代」22人(21.2%)、「80代」14人(13.5%)、「50代」12人(11.5%)、「90代」5人(4.8%)、「30代」・「40代」各4人(各3.8%)、「20代」2人(1.9%)、「無回答」6人(5.8%)と続いた。

大学生では「10代」57人(72.2%)が最も多く、次いで「20代」14人(17.7%)、「60代」1人(1.3%)、「無回答」7人(8.9%)と続いた。

### 2. 利用状況

事業所等において「利用したことはない」72人(69.2%)が最も多く、次いで「利用している」21人(20.2%)、「現在は利用していない」7人(6.7%)、「無回答」4人(3.8%)と続いた。

大学生では「利用したことはない」72人(91.1%)が最も多く、次いで「現在は利用していない」1人(1.3%)、「無回答」6人(7.6%)と続いた。

### 3. 利用できない理由(複数回答可)

事業所等の回答件数は99件であり、「都合が合わない」23件(23.2%)が最も多く、次いで「活

動内容がわからない」16件(16.2%)、「特になし」12件(12.1%)、「交通手段が限られている」11件(11.1%)、「仕事や家事、介護が忙しい」7件(7.1%)、「近くにカフェがない」4件(4.0%)、「開催場所に入りづらい」・「認知症の言葉に抵抗がある」各3件(各3.0%)、「利用を他人に知られたくない」1件(1.0%)、「その他」6件(6.1%)、「無回答」13件(13.1%)と続いた。

大学生の回答件数は79件であり、「近くにカフェがない」20件(25.3%)が最も多く、次いで「交通手段が限られている」・「興味・関心がない」・「活動内容がわからない」各9件(各11.4%)、「都合が合わない」8件(10.1%)、「特になし」5件(6.3%)、「認知症の言葉に抵抗がある」4件(5.1%)、「仕事や家事、介護が忙しい」2件(2.5%)、「開催場所に入りづらい」1件(1.3%)、「その他」4件(5.1%)、「無回答」8件(10.1%)と続いた。

### 4. 必要性

事業所等において「感じる」34人(32.7%)が最も多く、次いで「とても感じる」23人(22.1%)、「わからない」20人(19.2%)、「少し感じる」11人(10.6%)、「あまり感じない」8人(7.7%)、「感じない」2人(1.9%)、「その他」1人(1.0%)、「無回答」5人(4.8%)と続いた。

大学生では「感じる」37人(46.8%)が最も多く、次いで「少し感じる」18人(22.8%)、「とても感じる」10人(12.7%)、「わからない」9人(11.4%)、「あまり感じない」3人(3.8%)、「感じない」1人(1.3%)、「無回答」1人(1.3%)と続いた。

### 5. 必要及び配慮すべきこと(複数回答可)

事業所等の回答件数は199件であり、「訪れやすい雰囲気」43件(21.6%)が最も多く、次いで「活動内容」・「交通の利便性よさ」各18件(各9.0%)、「わからない」16件(8.0%)、「相談体制の充実」15件(7.5%)、「広報や活動内容の周知」・「特になし」各14件(各7.0%)、「開催時間」13件(6.5%)、「開催場所」12件(6.0%)、「プライバシーへの配慮」10件(5.0%)、「開催

場所の立地条件の良さ」9件(4.5%)、「開催回数」5件(2.5%)、「その他」2件(1.0%)、「無回答」10件(5.0%)と続いた。

大学生の回答件数は227件であり、「訪れやすい雰囲気」63件(27.8%)が最も多く、次いで「開催場所」30件(13.2%)、「交通の利便性の良さ」29件(12.8%)、「活動内容」・「広報や活動内容の周知」各23件(各10.1%)、「相談体制の充実」17件(7.5%)、「プライバシーへの配慮」15件(6.6%)、「開催回数」10件(4.4%)、「開催場所」8件(3.5%)、「開催場所の立地条件の良さ」7件(3.1%)、「その他」2件(0.9%)と続いた。

#### 6. 望ましい開催場所(複数回答可)

事業所等の回答件数は144件であり、「介護施設」28件(19.4%)が最も多く、次いで「公民館・集会所」26件(18.1%)、「商業施設」20件(13.9%)、「地域の民家・空き家」12件(8.3%)、「飲食店」・「医療機関」・「わからない」各11件(各7.6%)、「保健所」4件(2.8%)、「市役所・支所」3件(2.1%)、「図書館」2件(1.4%)、「学校」1件(0.7%)、「その他」3件(2.1%)、「無回答」12件(8.3%)と続いた。

大学生の回答件数は176件であり、「商業施設」48件(27.3%)が最も多く、次いで「飲食店」41件(23.3%)、「公民館・集会所」21件(11.9%)、「地域の民家・空き家」14件(8.0%)、「医療機関」12件(6.8%)、「介護施設」・「学校」各11件(各6.3%)、「図書館」7件(4.0%)、「わからない」4件(2.3%)、「市役所・支所」・「保健所」各2件(各1.1%)、「その他」3件(1.7%)と続いた。

#### 7. 望ましい開催曜日(複数回答可)

事業所等の回答件数は117件であり、「平日」26件(22.2%)が最も多く、次いで「こだわらない」25件(21.4%)、「日曜日」21件(17.9%)、「土曜日」・「わからない」各15件(各12.8%)、「祝日」5件(4.3%)、「無回答」10件(8.5%)と続いた。

大学生の回答件数は116件であり、「日曜日」28件(24.1%)が最も多く、次いで「土曜日」27件(23.3%)、「こだわらない」26件(22.4%)、

「祝日」15件(12.9%)、「平日」14件(12.1%)、「わからない」6件(5.2%)と続いた。

## V. 考察

意識調査の再検証に関する分析結果の考察については、次のとおりである。

カフェの利用状況において、事業所等の回答者の約7割、大学生の回答者では9割以上が「利用したことはない」との回答がみられた。利用状況に関連して、カフェを利用できない理由については、事業所等では「都合により」、大学生においては「近くにない」との回答が最も多くみられた。カフェの開催状況と地域の利用者ニーズとの間に差異が存在すると考えられる。併せて、「活動内容がわからない」との回答についても双方において一定数みられた。地域において、カフェの活動及び開催情報等が十分に伝わっていない可能性があり、住民のカフェの利用に影響を及ぼしていると考えられる。

カフェの必要性については、回答者間に認識の差異が存在するが、事業所等の回答者の6割以上、大学生の回答者では8割以上において、「感じている」と肯定的にとらえる回答がみられた。一方、事業所等の回答者の約2割において、「わからない」との回答がみられることから、カフェを利用できない理由と同様に、地域においてカフェの活動内容等が十分に伝わっていないと考えられる。大学生の回答については、学内において福祉を学ぶ環境であることが回答結果に反映していると考えられる。

カフェにおいて、必要及び配慮すべきこととしては、事業所等及び大学生の回答者の双方より、「訪れやすい雰囲気」であるとの回答が最も多くみられた。必要及び配慮すべきことに関連して、カフェの望ましい開催場所については、事業所等では「介護施設」、大学生においては「商業施設」との回答が最も多くみられた。住民がカフェに求める「訪れやすい雰囲気」については、開催場所の利便性と併せて、カフェを利用できない理由にある「認知症の言葉に抵抗がある」等の回答がみ

られるように、回答者それぞれが想起する印象がカフェの訪れやすさに影響を及ぼしていると考えられる。

## Ⅵ. 結論

意識調査を再検証した結果、カフェの利用促進における住民間の年代的差異については、回答者それぞれの年代によるライフスタイルと関連しており、その差異がカフェの意識のとらえ方に影響を及ぼしていることが明らかとなった。同時に、今後のカフェの利用促進において、さまざまな年代の住民が「訪れやすい」と感じることができるカフェの環境づくりが最も重要であるといえる。また、住民がカフェを身近な存在として認識し、

活動に対する理解を深めるためには、カフェの開催情報に併せて、活動の意義及びカフェを利用することにより得られる効果等について、地域に向けて積極的に周知できる仕組みが求められるといえる。

## Ⅶ. 本研究の課題と限界

本研究において、対象者それぞれの詳細な属性（認知症の人、その家族等）におけるカフェに関する意識等については把握することができなかった。同時に、調査場所及び調査母数が限られていることから、地域における十分な客観性を担保し得ていないことは本研究の限界である。

## <引用文献>

---

- いわき市（2018）「第2章 高齢者をめぐる状況 2 本市の高齢者をめぐる状況（1）本市の人口と高齢者数の推移 ②高齢者数の推移」『第8次いわき市高齢者保健福祉計画』, 5
- いわき市（2018）「第4章 取組みの視点ごとの施策の方向性 8 認知症対策の推進（1）前計画の進捗状況と課題 ④認知症カフェ事業」『第8次いわき市高齢者保健福祉計画』, 50
- 大津拓直（2018）「認知症カフェの発展と未来を考える ～いわき市における認知症カフェに関する意識調査を通じて～」日本社会事業大学大学院福祉マネジメント研究科実践研究報告書（未公開）